

2016年1月15日

1. 概要

実践団体名	埼玉県立埼玉県立日高特別支援学校		
連絡先	042-985-4391		
プランタイトル	車椅子の視点から防災へ！～かわせみ防災プロジェクト～		
プランの対象者※1	8・9・10・13・ 14・17	対象とする 災害種別※2	1・3・6

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- 1 訓練方法、研修を通じて防災力向上
- 2 車椅子の人たちが取り組みやすい防災プログラム（かわせみ防災タイム）
- 3 PTA防災委員会・地域との連携

これまで職員や保護者が安心な場所作り、身を守る方法に取り組んできたが、今年度は「児童生徒への防災教育の充実」に力を入れた。児童生徒が体験し、気づきを得ることで大人たちが変わっていく。これらの本校の取り組みをまとめ、車椅子の子どもたちの視点から防災について考え、一つの形として提案する。

【プランの概要】

- 1 緊急地震速報を用いた「ショート訓練」では、この3年間で1日の学校生活の様々な場面において、全て対応できるように1年ごとにテーマを決めて実施した。
避難訓練や職員研修では、昨年度作成した「災害アクションカード」を使用し、各担当が対応行動をとることができた。また、児童生徒が災害時のイメージを持てるように、「煙・防火扉体験や校内施設の倒壊想定」などの避難訓練の場面設定の工夫をした。
- 2 今年度から本校の防災教育を「かわせみ防災タイム」として、全9回実施した。生活年齢によって指導内容の工夫と体験学習を行うことで、児童生徒・職員が各々気付くことができた。
また、今年度より発足した防災委員会の児童生徒が中心になり、ひだか防災安全マップの作成、はるかのひまわり絆プロジェクトに取り組んだ。「あたりまえ防災体操」を本校バージョンに作り変え、これまでの指導内容を歌と体操と共に分かりやすく伝えることができた。
- 3 2年目にあたる「防災体験プログラム」では、PTA防災委員会と連携し15の体験プログラムを企画・実施した。参加者、協力機関も増え様々な体験を基に防災について考えることができた。

【期待される効果・ここがおすすめ！】




- 1 かわせみ防災タイムの学習は、特別支援学校でも防災教育として取り組みやすいものである。テーマを1回ずつ決め、短時間でも行える内容にした。
「あたりまえ防災体操」を本校バージョンで作成し、車椅子の児童生徒でも取り組みやすい動きやこれまでに行ってきた身の守り方を歌詞に加えた。これにより児童生徒も親しみながら身を守る方法を覚えられるようになった。また、防災委員会の活動を合わせて行ったことで、児童生徒たちにとっては、防災が身近になり、教職員も日常的に防災の視点を意識することができた。
- 2 防災体験プログラムでは、近隣の企業、団体と協力し、それぞれの専門性を生かした体験を行い、防災をきっかけに地域とのつながりを助け、絆を深めることができた。車椅子の子どもたちでも取り組みやすいプログラムを作成することができた。

2. プランの年間活動記録 (2015 年)

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4月	避難訓練 かわせみ防災タイム	かわせみ防災タイム ショート訓練指導案	第1回かわせみ防災タイム ショート訓練(登校時)
5月	↓ 防災体験プログラム 職員防災研修 引き渡し訓練	防災委員会年間計画 防災体験プログラム打ち 合わせ	災害用伝言ダイヤル体験 避難訓練・第2回かわせみ防災タイム 第1回児童生徒防災委員会
6月		防災体験プログラム外部 講師打ち合わせ	ショート訓練(プール指導時) 防災体験プログラムちらし配布
7月	↓ 学校開放講座	防災体験プログラム製作 物(防災委員会) アクションカード製作	伝言ダイヤル体験・引き渡し訓練 防災体験プログラム・職員防災研修 第2回防災委員会マップ製作
8月		アクションカード改訂	職員防災研修まとめ・学校開放講座
9月	災害時サポートブック 製作	かわせみ防災タイム展 示、掲示準備 バックDEずきん試作	伝言ダイヤル体験 ショート訓練(プール指導中) 第3回防災委員会(マップ作成) 第3・4回かわせみ防災タイム
10月	↓ 避難訓練 PTA防災学習会	引き渡し訓練反省 サポートブック外部協力 者のチェック	第5回かわせみ防災タイム(展示) 第6回かわせみ防災タイム(非常食) 防災教育チャレンジプラン中間発表
11月	↓ 職員防災研修	職員防災研修(講師打ち合わ せ) PTA防災委バック製作	避難訓練・第7回かわせみ防災タイム 第4回防災委員会(発表打ち合わせ) PTA防災学習会・バックDEずきん展示
12月		チャレンジプランまとめ	伝言ダイヤル体験・ショート訓練(給食時) 職員防災研修(防災教育指導法)
1月	スクールバス緊急時 停車場所点検	かわせみ防災タイム教材 製作(電話)	伝言ダイヤル体験 第8回かわせみ防災タイム(171) 第5回防災委員会(非常袋点検、アンケート等)
2月	家庭版防災マニュアル改訂 年度末評価反省 アクションカード改訂	ショート訓練反省 かわせみ防災タイムゲーム 製作	第6回防災委員会(まとめ) 全校集会活動報告 ショート訓練(給食時) 防災教育チャレンジプラン最終報告会 第9回かわせみ防災タイム(ゲーム)
3月	次年度の引継ぎ、計 画の見直し		地震に備えた防災総点検 アクションカード改訂・掲示等

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：1】※3

タイトル	第1回かわせみ防災タイム
実施月日（曜日）	4月第3週の午後（学部により開催日が異なる）
実施場所	小学部多目的室・体育館等
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：齋藤朝子（小）、田本博基（中）、手島大介（高） 所属・役職等：各学部教諭・防災部
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×1単位時間（13：45～14：30）
プログラムのカテゴリ、形式※4	（小学部）17：自立活動（中学部）17：学部集会（高等部）4
活動目的※5	1・6・8・9
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・非常口のマークの意味を知る。 ・災害時の身の守り方を知る。 ・あたりまえ防災体操
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>（大まかな流れ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常口のマークの説明 ・緊急地震速報音を聞き、どのような時に聞こえるか知る ・地震の時の身の守り方の確認 ・1分間チャレンジ（緊急地震速報音が聞こえてから地震が収まる目安として。実際は異なる可能性も含めて説明）じっとしたまま待つ1分間は長いということを知る。 ・あたりまえ防災体操で確認する <p>（学部ごとの工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部は非常口マークを見せてクイズ形式。紙芝居の読み聞かせを元に身の守り方の確認   <ul style="list-style-type: none"> ・中学部は「東京マグニチュード8.0」のアニメの一部を見せて地震の時に周りがどのようなになるか知る。体操は立位でできる人、車椅子の人の2バージョンで行う。  <ul style="list-style-type: none"> ・高等部は直前に発生したネパール地震についての説明を合わせ、ニュースで取り上げられていることを元に説明する。



準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	(小学部) ・紙芝居「災害からのサバイバル こんなとき キミならどうする？」(総務省消防庁 チャレンジ防災48!より) (中学部) ・アニメ「東京マグニチュード8.0」 ・緊急地震速報音CD ・校内の非常口の写真とマーク ・ラジカセ ・各自身を守るためのクッション、防災頭巾等
参加人数	各学部児童生徒
経費の総額・内訳概要	あたりまえ防災体操用CD-R
成果と課題	【成果】 ・絵カードやクイズに興味を持って参加していた。クイズ形式にしたことで積極的に発言した児童が多かった。 ・教科学習の子どもたちも非常口のマークの正しい意味が分かっていなかった。 ・楽しい雰囲気の中学ぶことができ、最初の取り組みだったが児童生徒だけではなく、教員にも好評だった。 ・「あたりまえ防災体操」は覚えやすく、すぐに児童生徒や教職員たちが口ずさんでいた。 【課題】 ・小学部は人数が多くて、遠くからの参加になってしまった児童がいた。会場や座る場所(絨毯の部屋で車椅子から降りなければいけなかったため、車椅子置き場等も必要だった)の検討。 ・終了時間が小学部低学年の児童にとっては下校指導と重なり、途中で抜けざるを得なかったため、終了時間を早めに設定したい。
成果物	あたりまえ防災体操CD ～日高かわせみバージョン～

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：2】※3

タイトル	第1回避難訓練
実施月日（曜日）	平成27年5月20日（水）
実施場所	本校バスターミナル前
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：手島大介 所属・役職等：高等部教諭・防災部副部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:20～11:40
プログラムのカテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	4・6・7・8・9
達成目標	・災害時に落ち着いた対応ができる ・災害の知識と対処の仕方を学習する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	（想定） ・震度6弱の地震後に調理室から火災が発生する。 ・災害発生後、校舎内外の被害状況を確認し、報告する。 ・災害対策本部の教員は災害時アクションカードを用いて動きの確認をする。 （訓練の流れ） ①緊急地震速報音が流れる「地震が来ます。身を守ってください」 ②身を守る行動をとる ③安全な場所で待機 この間、担当者が校舎内外の状況を確認、報告 ④地震の状況報告を放送で告げる ⑤火災発生 ⑥消防署へ通報 ⑦初期消火 ⑧避難指示 ⑨担任等による避難誘導 ⑩避難場所のバスターミナル前に集合、点呼、安否確認 ⑪各学部主事に報告。主事は災害対策本部に学部の状況を報告 ⑫消防署の方の指導講評 ⑬校長の話
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・埼玉西部広域消防本部 埼玉西部消防署高萩分署 署員（消防車・救急車・水消火器） ・緊急地震速報音CD ・災害時アクションカード（災害対策本部用＋各教室） ・非常持ち出し本部BOX ・拡声器 ・ヘルメット ・防災頭巾 ・クッションや布団など
参加人数	本校児童生徒教職員 約190名



経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導を行ったことで、速報音を聞くとすぐに身を守る行動を起こすことができた。 ・児童生徒や教職員は落ち着いて身を守る行動をとることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災担当の管理職の放送の指示が分かりにくかった。はっきりと、手短にする。 ・ガラスの飛散（ペットボトルで代用）している場所を避難路に設定した。すぐに避けて通過できたため、困難さを感じて通過するような体験ができなかった。ガラス飛散防止対策及びガラス飛散を片付ける担当も必要である。必要がある。 ・防火扉を使用して実際に通過する訓練を行ったが、児童生徒だけでは、どこを開ければいいのか分からず、ドアから離れた場所を押していたため、なかなか開くことができなかった。 対策→防火扉の「なぞの赤い手」のマーク（効果的にドアが開く場所に手のマークを貼り付け、ガイドにした） ・避難場所が外だったため、事前に暑さ対策をして臨んだが、アスファルトからの照り返しもあり、車椅子の児童生徒にとっては大変な訓練であった。 対策→5月後半はすでに暑い日が多いため、実施時期を早めてほしいという意見もあり、検討中。
成果物	<ul style="list-style-type: none"> ・火事の時の身の守り方のカード ・防火扉の「なぞの赤い手」のマーク（効果的にドアが開く場所に手のマークを貼り付け、ガイドにした）




※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：3】※3

タイトル	第2回かわせみ防災タイム
実施月日（曜日）	平成27年5月20日（水）
実施場所	バスターミナル前
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：齋藤朝子 所属・役職等：小学部教諭・防災部部长
所要時間または「コマ数×単位時間」	避難訓練後 10:40～11:10 (避難訓練と合わせて50分：授業1コマ分)
プログラムのカテゴリ、形式※4	13・16
活動目的※5	4・5・6・7・8・9
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・火事と煙からの身の守り方として身を低くすることやマスクをする大切さを知る ・あたりまえ防災体操で身の守り方を確認する
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の振り返り ・緊急地震速報音が聞こえた時の身の守り方について ・火事の時の対応について学習する <ul style="list-style-type: none"> ① 大きな声で知らせる ② 消火器で火を消すこと等 ・水消火器を使って消火体験をする ・煙から身を守るために 身を低くすること、煙の危険性についてと煙を吸わないようにマスクやハンカチで口元を覆うことを学習する ・あたりまえ防災体操で身の守り方をみんなで確認する ・煙に見立てた布を、先ほどの説明を元に身を低く、口元を隠すことを意識して通過する 通過する際に気づいたことをアドバイスする ・指導時に分かりやすいようにカラフルなヘルメットを使用した。 注目しやすいこと、かつ「かっこいい」等の理由で防災に興味を持ってもらうため。 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉西部広域消防本部 埼玉西部消防署高萩分署 署員 (消防車・救急車・水消火器) ・火事の時の身の守り方カード ・あたりまえ防災体操CD ・水消火器 ・火の的 ・煙用の布（オーガンジー黒色） ・アンブセット ・ヘルメット



参加人数	全校児童生徒教職員 約190名
経費の総額・内訳概要	9,696円(布代・ヘルメット代)
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煙に見立てた布が分かりやすく、皆真剣に取り組むことができた。防災教育でも体験学習が有効である。 ・煙から身を守るためにマスクが有効だと感じてもらうことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火体験時、見学の児童生徒から見えにくい場所になってしまったので、隊形を見直す。 ・マスクを嫌がる児童生徒への対応について、引き続き検討する。
成果物	



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号：4】※3

タイトル	ショート訓練
実施月日（曜日）	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回 4月・6月・9月・12月・2月の設定期間の1週間のうちの各1日。期間中に2日実施したこともある。 ・日程を知らせずシークレットで実施。 ・今年度は前半（4月～9月）登校時、夏季（プール指導中）、後期（9月～2月）を給食指導中と設定。 ・回数は昨年度の反省により頻回にせず間を取った。
実施場所	本校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：手島大介（高）・田本博基（中）・小木曾康弘（小）・久賀歩（小） 所属・役職等：各学部教諭・防災部
所要時間または「コマ数×単位時間」	5分程度×6回
プログラムのカテゴリ、形式※4	8・16
活動目的※5	4・5・7・8・9
達成目標	緊急地震速報音を聞いて、自分または教職員と一緒に身を守るための適切な行動をとることができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>（訓練前）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内の安全点検および環境整備を行う。 ・防災頭巾やクッションの場所を確認する。教室以外の場所ではヘルメットの位置を確認しておく。 <p>（訓練）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報音×2回を流し、「地震が来ます」の放送をする ・児童生徒は緊急地震速報音を聞いたら自分で、または教職員と一緒に周囲の状況を確認し、「おちてこない」「たおれてこない」「いどうしてこない」安全な場所へ移動する。 ・自分または教職員と一緒に頭を守る行動をとる。または防災頭巾やクッション等で頭部を保護する。 ・児童生徒は慌てず落ち着いて行動をとる。または教職員の支援を受け入れる。 ・1分後、地震の状況を説明すると共に訓練であることを告げる。「緊急地震速報は怖い音ではなく、地震の前に安全な姿勢をとるために知らせてくれるためのもので、みんなを守ってくれる音」であることを伝える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>（訓練終了後）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その場で、または帰りの会等で訓練の時の行動を振り返り事後学習につなげる。



準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放送担当者（教頭） ・ 緊急地震速報音CD ・ ラジカセ ・ 防災頭巾、ヘルメット、毛布、クッションなど身を守るもの
参加人数	本校児童生徒教職員 約190名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間の訓練ではあるが、これまで3年半の訓練の積み重ねの効果が出ており、どの場面でも落ち着いて行動をとることができた。 ・ 教職員も普段の場面でも「今ここで本当の地震が起きたらどうしようか」と考えるようになった。 ・ 緊急地震速報音を聞くと自分でダンゴムシのポーズをとったり、周りの様子を見て同じように身を守る行動をとったりすることができた。自分でできる児童生徒が増え、他の必要なところに教職員が支援に入ることができた。 ・ 記録用の写真を撮ろうとすると「危ないから早くここ（安全な場所）へ！」と児童生徒から叱られてしまうという嬉しい場面が各学部で見られた（そのため記録はほとんど撮れなかったが）。これまでとは違い、自分の身だけでなく周囲の人を気遣う様子が見られるようになった。 <div data-bbox="544 1016 1011 1290" style="text-align: center;"> </div> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの訓練の経験から、緊急地震速報音が流れてから1分後に放送で説明が入っていたが、放送が入るまで時間が少し長かったようで不安になることがあった。地震が来る前にいかに身を守るかということに焦点を当てる。手短かに済むように内容を見直す。
成果物	特になし


※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。



※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号：5】※3

タイトル	児童生徒会 防災委員会（かわせみ防災タイムの一つ）
実施月日（曜日）	1学期 5月27日（水） 7月8日（水） 2学期 9月9日（水） 11月9日（月）・11日（水） 3学期 1月13日（水） 2月3日（水）
実施場所	調理室および体育館、各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：齋藤朝子 所属・役職等：小学部教諭・防災部部长
所要時間または「コマ数×単位時間」	13：45～14：30 1コマ×7単位時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	8（特別活動）
活動目的※5	2・3・6・8
達成目標	・本校を安全にするために防災についての課題を見つけ、解決する ・かわせみ防災タイムの中心的存在となって活動する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・はるかひまわり絆プロジェクトに参加 ・防災体験プログラムの看板作り ・ひだか防災安全マップ作り ・あたりまえ防災体操練習 ・（学期初め）防災袋を持参してきたか確認
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・防災部（ひまわりを育てるため新たに花壇作り） ・デジカメ ・プリンター ・模造紙 ・色画用紙 ・サインペン ・両面テープ ・ひまわりの種 ・あたりまえ防災体操CD
参加人数	小学部2名 中学部7名 高等部5名 計14名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 ・ひまわりの栽培は、どの児童生徒でも取り組みやすい活動だった。委員会を中心としたが、学年やグループの学習活動につなげ、防災委員の取り組みをみんなに知ってもらえる機会にもなった。 

	<ul style="list-style-type: none">・ 自立活動や散歩の時間などに校内の危険な場所を探し、それぞれのペースでひだか防災安全マップを作製することができた。   <ul style="list-style-type: none">・ 文化祭の掲示やかわせみ防災タイムでの活動など、児童生徒たちが防災教育に取り組む姿を発表する場面を設定したことで、活動への意欲につながった。防災について、それぞれのペースではあるが、意識している様子を担任たちが認め、評価している。・ 教職員主導ではなく、委員会の児童生徒と共に今年度のかわせみ防災タイムを作り上げることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 防災委員会の担当教員との活動の打ち合わせ時間を十分に確保することができなかった。
成果物	ひだか防災安全マップ

- ※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
- ※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
- ※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：6】※3

タイトル	引き渡し訓練
実施月日（曜日）	平成27年7月1日（水）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：手島大介 所属・役職等：高等部教諭・防災部副部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	15:00～15:55
プログラムのカテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	4・5・6・8・9
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は災害が発生した場合の身を守る方法を知り、避難から引き渡しまでを教員の指示を受けながら安全に、且つ落ち着いて行動する。 ・教職員と保護者は「災害時引き渡しカード」を用いてお互いに引き渡しの手順を確認する。 ・災害時組織班の動きを災害時アクションカードを用いて確認する。保護者の車の誘導、引き渡し付近の安全を図る班等。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は引き渡しの手順の確認をいかに効率よく行うかを目的として、参加学年を小学部1・4年、中学部1年、高等部1年、転入生に限定する。参加できない場合は次年度に実施する。 ・他学年は通常下校。スクールバス、レスパイトサービスの下校が終わった時点で訓練を開始する。 ・引き渡し訓練日が災害伝言ダイヤル体験と重なったため、伝言ダイヤルに引き渡し訓練の内容を入れ、併せて当日の朝に本校のメーリングリストを利用して訓練のお知らせと注意事項を配信し、保護者が2つの方法で確認する。 ・通常下校終了後、緊急地震速報音が流れる。 ・児童生徒、教職員共に身を守る行動をとる。 ・校内外の点検が終わるまで安全な場所で待機する。点検後災害対策本部に報告し、次の行動を検討する。 ・避難経路が危険で校内の安全が確認されたので体育館に避難する指示を本部長が出す。 ・防災袋を持って体育館に避難する。不参加の学年の担任は、空の車椅子を持って体育館に避難する（動きの確認のため、全職員参加） ・点呼、安否確認を行う。 ・安全が確保されたので引き渡しを開始する旨を指示する。 ・児童生徒の安全確保が最優先で行動する。参加児童のいない各分掌の教員が車の誘導、引き渡し、物品搬出の担当とする。 ・昨年度の反省から天候に関係なく引き渡し場所を外とし、安全かつスムーズな引き渡しができるように手順を確認した。 ・保護者の車は一方通行にし、来た順に引き渡しができるようにした。車に乗り込む時間がそれぞれ違うので誘導に配慮した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・引き渡し時間までに引き渡しが出来なかったため、担任が連絡を取り続け、予定より30分遅れで到着。無事引き渡しが終了した。
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部持ち出しBOX ・校内図 ・拡大名簿 ・災害時アクションカード ・災害用ポータブルトイレ ・拡声器 ・災害対策本部用ビブス、車誘導用ビブス ・トランシーバー ・ついたて ・マット ・水 ・おむつ ・防災頭巾、ヘルメット等身を守るもの ・防災袋（各自が用意している持ち出し袋）
参加人数	小学部1年12名・4年7名・中学部1年7名・高等部1年3名 合計29名 教員 約95名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、引き渡しの手順を拡大コピーしたものを掲示し、災害時アクションカードに手順を記載して担任が確認していたため、大きな混乱は起こらなかった。 ・昨年度のチャレンジプランで作成した引き渡しカードを活用したが、事前に担任が保護者と確認をしていたため、忘れた人はほとんどいなかった。 ・引き渡しカードがネームプレートの裏に入る大きさであることは大変有効であった。 ・災害時組織班で当日フリーになっていた教職員には、それぞれの持ち場から全体を客観的に見て、課題を挙げてもらうことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車誘導係の各持ち場からは、全体の様子が分からず、あと何人残っているか、迎えが遅れているのか等不安にさせたため、必要な情報を伝達・連絡する方法を検討する。 ・避難場所と引き渡し場所は隣だったが、引き渡しの状況が見えにくかったため、災害対策本部が様子を見に外に出ていくことが多かった。そのため本部に人がいない場面もあった。本部の場所を明確にし、連絡が必要な時に必ず誰かがいるように本部の有り方を確認する必要がある。 ・トランシーバーの使用方法など年度当初に確認し、すぐに使えるようにしておく必要がある。充電や乾電池の確認など。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号：7】※3

タイトル	災害伝言ダイヤル体験
実施月日（曜日）	1学期 5月 1日 7月 1日 2学期 9月 1日 12月 1日 3学期 1月 15日
実施場所	学校および家庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：手島大介（高） 田本博基（中） 所属・役職等：教諭 防災部
所要時間または「コマ数×単位時間」	1・2学期 9：00～15：00 3学期 9：00～21：00
プログラムのカテゴリ、形式※4	17（家庭での実施・確認）
活動目的※5	4・5・7・8・9
達成目標	・災害時における有効な連絡方法を確認すると共に実際に体験する。 ・その際に何か問題がある場合は速やかに検討、改善する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・平常時から学校のHPに緊急時の連絡方法を載せて、確認できるようにする。（年度当初に配布した資料および家庭版防災マニュアルに記載）。 ・担当が災害伝言ダイヤル171およびWeb171に録音、伝言入力する。家庭の都合のよい時間に確認し、結果をアンケートに記入して提出する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・本校HP ・家庭版防災マニュアル ・災害伝言ダイヤル体験方法についてのお知らせ文書 ・電話 ・パソコン
参加人数	本校児童生徒教職員 アンケート提出：約40名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 ・これまで6年以上続いている取り組みのため、スムーズに確認できる人も増えている。 ・5月に大きな地震が発生し、連絡が取れなかった経験を基に、「せつかくの取り組みを活かして、是非体験しなければいけない」という感想をアンケートに記入した保護者がいた。本人の了解を得て防災部便りに掲載し、体験してもらう必要性を皆に伝えることができた。 ・引き渡し訓練時に体験日を合わせたことでより、災害時を想定した取り組みにすることができた。 ・8回目のかわせみ防災タイムと関連させ、児童生徒が学習場面で体験し、帰宅後その話を基に家族で改めて体験するという機会につなげていく取り組みを行う予定である。年に複数回の体験や訓練との連動、外部機関と連携するなどにより災害伝言ダイヤル体験を身近に感じてもらうことができた。



	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度の意見から、児童生徒が登校中で家にいない時間に実施したことで参加者は増えている。一方で仕事している保護者や教職員は実施時間に参加することができなくなってしまった。異動により体験したことの無い教職員も増えたので、今後は15時以降にもう一度録音、入力して21時までの1日2回体験できるように工夫していく。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：8】※3

タイトル	防災体験プログラム
実施月日（曜日）	平成27年7月29日（水）
実施場所	本校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：齋藤朝子 所属・役職等：小学部教諭 防災部長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	10:00～14:30
プログラムの カテゴリ、形式※4	1
活動目的※5	1・3・5・6・7・8・9
達成目標	災害の疑似体験をすることにより、災害時の課題や防災への意識を高める。
実践方法・進め方 （簡条書き またはフロー）	<p>（計画・準備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春休み中に社会教育施設に防災アクティビティーについての打ち合わせ。本校の状況からどんな体験が可能か調整。講師の方が以前肢体校教員経験者のため、具体的なイメージを持ちやすかった。 ・4月よりPTA防災委員会と日程調整。どんな体験をしたいか希望の提出依頼をする。 消防署に起震車の依頼を打診。5月に正式に申し込み。 <p>【5月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災士会に協力依頼、彩の国炊き出し応援隊申し込み、光の家療育センターの看護師に講師派遣を依頼する。 ・プログラムの概要を決定、広報に原稿依頼。ポスターの作成。配布。 <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAの参加者、ボランティア募集を開始。同時にレスパイトサービス事業所にもチラシを配布。 ・プラス・アーツの合同研修会参加、体験プログラムについて指導、助言。 ・PTA防災委員から市内の段ボール業者が、災害時に段ボールベット等を寄贈した話を伺う。保護者が参加の交渉、快諾。 <p>【7月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料準備、担当者との打ち合わせを個々に行う。 ・役割分担など当日の動きを教職員に配布、スタンプラリー担当にはアクションカードを作成し、配布。 ・急遽県の備蓄品払い下げの希望打診があり、受領する。非常食体験に活用する。 ・防災委員会が体験プログラムの看板作り。 ・テレビ局から取材依頼。打ち合わせ。 ・会場を猛暑のため変更することに。当日の資料作成。



	<p>(広報活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日高市、狭山市広報にイベント紹介を掲載依頼 ・ポスターをバスに掲示依頼 ・近隣へチラシを配布 ・学校見学の際にチラシを配布 ・HPに開催を掲載 <p>(当日の流れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅からお勧めの防災グッズ、空き瓶を持参。 ・受付（避難所用名簿に記入） ・始まりの会（自己紹介タイムに我が家の防災グッズを紹介） ・あたりまえ防災体操でウォーミングアップ ・防災スタンプラリー（各自好きなブースで体験する） 毛布担架、暗闇体験、ケガの手当て（iPad アプリあり） エコキャンドルづくり、消火体験、起震車体験、防災の本 防災の映画、非常食試食、避難所体験、災害用トイレ作り 段ボールで遊ぼう、段ボール家具（企業展示）、防災ゲーム 紙食器作り（PTA防災委員会）、防災用品展示、 災害医療相談コーナー、AED体験・救急救命、炊き出し ・PTAクイズ（全員集合） ・終わりの会 ・修了証を受け取り解散
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>(人材)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：関谷由紀子 名栗げんきプラザ エコキャンドル等 ・講師：山口 陽介 光の家療育センター看護師 災害医療 ・日本防災士会 埼玉支部 9名 ・(株)モルト技研（段ボールトイレ、ベット展示） ・埼玉西部広域消防本部 埼玉西部消防署高萩分署 署員 （消防車・起震車・水消火器） ・日高市ボランティア1名 ・埼玉県危機管理課 ・彩の国炊き出し応援隊（LPガス協会西部支部、JAいるま野） ・日高市社会福祉協議会 ・PTA防災委員会（企画、準備、当日の運営） ・児童生徒会防災委員会（看板作り） ・NHK埼玉支局 ・飯能日高ケーブルテレビ <p>(道具・材料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時アクションカード ・ビブス ・名簿 ・防災の本10冊ほど（過去の講師の本など） ・DVD「東京マグニチュード8.0」 「逃げ遅れた人々 東日本大震災と障害者」 ・ペットボトル片 ・オーガンジー布（煙体験） ・iPad（救命アプリインストール） ・骨折の手当て用添え木 ・消火体験用的 ・校内図 ・当日プログラム ・修了証 ・お土産資料（プラスアーツさんのもの） ・非常食（乾パン、おかゆ、炒飯、五目御飯） ・お湯 ・アルミカップ ・スプーン ・ぞうきん ・マスク ・消毒スプレー ・会議テーブル ・鍋 ・LPガス ・炊飯器 ・発電機Hondaエネポ ・AEDトレーナー ・水消火器 ・起震車 ・毛布 ・けが人人形「日高まもるくん」



	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンプラリー台紙 ・スタンプ・廃油（給食調理で出たもの） ・クレヨン ・タコ糸 ・割りばし ・ようかん ・無洗米 ・レトルトカレー「救給カレー」 ・アルミクシート（炊き出し保存用） ・本校備蓄品 ・段ボール（遊び用、避難所用衝立加工） ・災害用トイレ ・トイレ用テント ・チラシ ・紙食器の作り方説明シート ・校区内市町ハザードマップ11種類 ・うさぎ一家の防災荷造りゲームとその内容を具体物にしたもの ・各ブースの看板 ・クイズ用スライドを印刷したもの ・あたりまえ防災体操CD ・アンプセット ・いす
参加人数	180名 （本校児童生徒と家族 70名 職員90名 講師2名 他校参加者3名 他20名）
経費の総額・内訳概要	26,578円（ビブス・炊き出し・人形制作・講師交通費）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時組織班の給食、救護担当に炊き出し、救命救急のコーナーを任せ、それぞれの自由な発想で有効な体験をすることができた。炊き出しは、本校の状況を考えてレトルトカレーを使用した。参加者からも好評であった。 ・本校がお世話になっている病院の看護師に、体験を元に災害医療相談コーナーをお願いしたところ、会場に入りきれないほど人数が集まり大盛況だった。後日看護師の所属する光の家祭りに父親も連れて参加し、災害医療について再度相談することができた家庭もあった。 ・参加者、協力団体も増え、様々な視点で防災について考えることができた。 ・災害対策本部を中央に位置し、目立つようにビブスを着用したことで、外部の方にも分かりやすく、何か困ったことがある時には声を掛けてもらい、すぐに対応することができた。 ・保護者、教職員の満足度はアンケートを見ても高かった。また、防災士会埼玉支部の報告を元に防災士会のHPに掲載してもらうことができた。今後の防災士会の講座で車椅子の人の支援方法を伝えていきたいと話していた。本校の活動が広がっていくことにつながると思う。 <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> </div>



	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期が7月末になり、猛暑対策のため会場を体育館から冷房の効く校内に変更した。そのため真夏の体育館の暑さを感じる、という目的を果たすことができなかった。全体を見渡すことができなかったため、一体感を感じるための工夫を今後検討する。 ・各担当の打ち合わせをする時間を事前に確保し、災害についての知識や情報を確認できるようにする。 ・当日用意した資料をしっかりと読み込む時間がなかったためか、参加者からの質問に答えられるようにしたい、という反省があった。 ・PTA 防災委員会の考えたクイズとスタンプラリーの内容が、関連付くことにより理解が確認できるのではないか。 ・途中で緊急地震速報を流し、各自対応訓練を行う予定だったが、急遽対応しなければならないことが発生し、放送することができなかった。対応できない場合を想定した計画も必要である。
<p>成果物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時アクションカード（スタンプラリー係用） ・クイズ用スライド ・毛布担架人形（日高まもるくん）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：9】※3

タイトル	第1回職員防災研修
実施月日（曜日）	平成27年7月29日（水）
実施場所	本校会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：齋藤朝子 所属・役職等：小学部教諭 防災部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	9：00～10：00 避難所設営訓練 15：50～17：00 研修
プログラムのカテゴリ、形式※4	2
活動目的※5	4・6・8・9
達成目標	災害想定訓練により、災害時の課題や防災の意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>【9：00～10：00】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前日に大地震が発生。夜が明けて参集した教員が校内の点検を行うと共に市から要請のあった福祉避難所を開設するまでの手順を確認する（実際は災害発生後すぐに福祉避難所開設にはならない） ・災害組織を元に各班が災害時アクションカードを元に動きを確認する。 ・避難誘導班はこのあとの防災スタンプラリーのブース担当になり、アクションカードを元に準備を行う。 <p>【15：50～16：10】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班で反省。アクションカードを元に動きを見直し、直接カードに記入して訂正していく。 <p>【16：10～17：00】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目黒巻 班ごとに「登校時」「授業中」「自立（個別）学習時」「プール指導時」「下校時」「休日・夜間」「校外学習時」の設定でそれぞれの動きを書きだし、疑問や課題を明らかにしていく。各自書き出したものを班ごとにまとめ、発表する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時アクションカード ・目黒巻きシート（プリント1枚で防災教育「災害状況を想像する力を伸ばす」災害救援ボランティア推進委員会）
参加人数	本校教職員
経費の総額・内訳概要	0円







<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時どのような対応をするか、実際に動いたことで各自イメージを持つことができた。 ・災害時アクションカードを災害対策本部以外の職員にも使用してもらい、活用することができた。 ・「防災について考える1日」として職員研修と防災体験プログラムを実施。避難所設営訓練と防災体験プログラムの担当を分掌で割り振り、全職員が役割を明確に持ち、取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後半の目黒巻を使ったシュミレーション研修の十分な話し合いの時間をとることができなかった。
<p>成果物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「もしも こんな場所で地震が起こったら？」改訂版 ・災害アクションカード避難所設営版

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：10】※3

タイトル	学校開放講座 「大切な人を守る防災講座」
実施月日（曜日）	平成27年8月6日（木）
実施場所	本校会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当、講師 氏 名：齋藤朝子 所属・役職等：小学部教諭 防災部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:00～12:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	2
活動目的※5	1・3・5・6・8・9
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものでできる防災対策を知る ・防災が特別でなく『いつも』の取り組みでできることを知る
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の仕組み ・緊急地震速報について (参加者の居住地では教育委員会が緊急地震速報を用いた訓練を推進している) ・阪神淡路大震災の映像視聴 ・我が家の安全マップ（それぞれがいつも一番いる場所の中で危険な場所を見つけていく） ・うさぎ一家の防災荷造り（災害救援ボランティア推進員会より） <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・非常食試食（フリーズドライとレトルトの違いと調理） 「思ったよりおいしかった」「食べやすい」 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>





	<ul style="list-style-type: none"> ・ イツモ防災のすすめ 携帯する防災グッズ、ローリングストックについて ・ 埼玉県防災学習センターについて 身近に体験できる場所があるので夏休みの機会にぜひ家族で。
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad ・ パソコン ・ テレビ ・ 100円ショップで購入できる防災グッズ 家具固定 給水タンク 体拭きタオル等 ・ うさぎ一家の防災荷造り ・ 我が家の安全マップ ・ 阪神淡路大震災・東日本大震災の本 ・ 阪神淡路大震災の映像 ・ 非常食（レトルトカレー・缶詰パン・おかゆ） ・ スプーン ・ アルミカップ ・ 電気ポット
参加人数	4人
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かっている家族間でルールを確認していないこと、家の中の防災対策についてよくわかっていないことを参加者が確認することができた。 ・ 校内の案内をして、身体の不自由な人の支援を地域の人に伝えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のHPに情報を掲載するのが遅れたため、参加者が少なかった。 ・ 参加した子供の集中力が切れたため、予定を組み替えて非常食体験を行った。参加者の年齢を考慮して講座の内容を工夫できるようにしたい。ゲームやクイズを多くするなど。
成果物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座スライド

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：11】※3

タイトル	第3回かわせみ防災タイム
実施月日（曜日）	平成27年9月1日～5日までの間
実施場所	本校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：各学年、グループ担任 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	約20分 朝の会・学年活動等
プログラムのカテゴリ、形式※4	6
活動目的※5	6・8
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・9月1日は防災の日であることを知り、防災への意識を高める ・家庭から持参した防災袋を確認し、自分の防災用品を知る。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案を元に防災の日について説明する 必要に応じて絵本や写真等を活用する 地震の時の身の守り方（あたりまえ防災体操等）を確認する 台風の時の注意点を確認する（気象庁の資料等） ・家庭から持参した防災袋の点検をする（教員と共に） それぞれどのようなものが入っているか発表する 実態に応じて友達との違いや自分の防災袋について気づいたことを発表する  <ul style="list-style-type: none"> ・後日防災委員会が確認に来るので実施状況を報告する 



準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・『急な台風、雷、竜巻から身を守ろう』など気象庁のリーフレット（熊谷地方気象台 HP より） ・防災袋 ・地震に関する絵本
参加人数	全校児童生徒教職員
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭が毎学期用意している防災袋は、教職員が中身を確認するだけで普段そのまま置いてあることが多い。児童生徒と共に何が入っているか確認することで中身を知り、必要に応じて非常食が足りない、着替えが季節に合わないなど、中身の検討をすることができた。 ・季節に応じて防災部掲示コーナーを変えているが、防災袋に関する内容に変更して、教室以外でも気づいてもらえるように工夫している。 ・高等部棟では指導後に気象（台風・竜巻）に関する掲示をし、指導内容をいつでも確認できるようにした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、グループの指導の中で気付いたことや課題点を職員研修等で共有し、話し合う時間を設定する等、指導内容を充実させる工夫。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：12】※3

タイトル	第4回かわせみ防災タイム
実施月日（曜日）	平成27年9月3日（木）～11日（金）
実施場所	本校バスホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：齋藤朝子 所属・役職等：小学部教諭 防災部部长
所要時間または 「コマ数×単位時間」	各自実施時間を設定
プログラムの カテゴリ、形式※4	8・13・14
活動目的※5	1・6・8
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体験プログラムの展示を見たり体験したりすることで共有し防災への意識を高める
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・バスホールに防災体験プログラムの展示（災害用トイレ、ペットボトルガラス片、毛布担架、エコキャンドル、非常食、防災の絵本、当日の写真の掲示、うさぎ一家の防災荷造り、ヘルメット）を行い、自由に見学や体験をする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・体験できるものは他にもあるが、担任と児童生徒の2人でも体験できるものを用意する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>



準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブル2台 ・エコキャンドル ・ペットボトル片 ・毛布 ・人形（日高まもるくん） ・非常食（本校備蓄食） ・防災の絵本 ・体験プログラムの写真 ・災害用トイレ ・ヘルメット ・うさぎ一家の防災荷造り
参加人数	本校児童生徒教職員 約190名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの防災体験プログラムに参加できなくても毛布担架、ペットボトルのガラス飛散体験を友達や教職員と共に体験することができた。まもるくん人形は児童生徒が気づきやすく、それをきっかけに体験したケースが多かった。 ・参加した児童生徒は展示してあるものを見て、夏休みに行われた防災体験プログラムを振り返ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画では、給食前後の時間を有効活用でき、多くの人が行き交う食堂前のバスホールに設定した。しかし、今年度は食堂利用が小学部の児童のみの利用だったため、中学部・高等部の生徒から遠い場所になってしまい体験する機会が少なくなってしまった。来年度は場所を再検討し、安全かつ、みんなが楽しめるような展示や体験方法の工夫をする。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号：13】※3

タイトル	第5回かわせみ防災タイム
実施月日（曜日）	平成27年10月11日（土）・12日（日）ひだか祭にて
実施場所	本校廊下
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：齋藤朝子 所属・役職等：教諭 防災部部长
所要時間または 「コマ数×単位時間」	文化祭期間中 2日間
プログラムの カテゴリ、形式※4	1
活動目的※5	1・6・8
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭に来校した保護者、外部の人に、防災体験プログラムの報告及び本校の防災の取り組みを伝える。 ・防災委員会の活動の報告の場とする。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・管理棟廊下に防災体験プログラム、本校の防災の取り組みについての展示、車椅子の人達が身を守る方法についての提案コーナーを作る。 ・防災部掲示板に防災委員会の「はるかのひまわり絆プロジェクト」の様子や完成した「ひだか防災安全マップ」の掲示。マップの制作活動の様子を報告する。



準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ バック DE ずきん (実物とその作り方プリント) ・ 日高まもるくん ・ 車椅子 ・ 防災頭巾 ・ ヘルメット ・ 非常食 ・ 発電機 ・ 非常用トイレ ・ 防災に関する本 ・ 防災袋の見本 ・ チャレンジプランの取り組み ・ ひだか防災部便り ・ チャレンジプランの成果物 2 冊 ・ 会議テーブル ・ パネル
参加人数	来校者含む 300 人以上
経費の総額・内訳概要	0 円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や来校者に取り組みを広く知らせることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示場所が小学部と訪問部の作品展の近くであったため、中学部・高等部の保護者が通らない場所だった。参加者全員に目の触れる場所で展示する。
成果物	バック DE ずきん 実物とその作り方



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号：14】※3

タイトル	第6回かわせみ防災タイム
実施月日（曜日）	10月下旬
実施場所	各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：桑原玲子 所属・役職等：高等部教諭 給食部部长
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×（小学部45分：中・高50分）
プログラムのカテゴリ、形式※4	5（生活単元学習）・6
活動目的※5	1・4・5・6・8
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の食事として様々な非常食があることを知り、味に慣れる。 ・調理活動を通して非常食の調理方法を知る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、グループに県の備蓄食である乾パン、おかゆを配布し児童生徒と教職員が共に試食し、児童生徒の食べる様子を観察、味や食形態を確認する。 ・実態に応じて生活単元学習で乾パンを元にかりんとうづくり、白飯をもとにおにぎり屋さんなどの活動を行う。 ・生徒が自分で調理し、味の好みやどのようにすれば美味しく食べられるか意見を出し合う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・県の備蓄食 乾パン・おかゆ各10食ずつ。白飯（50人分×2箱） ・お湯（ポット） ・鍋 ・黒糖 ・バット など
参加人数	全校児童生徒教職員
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は児童生徒と共に食形態を確認しながら試食をすることができた。予想よりも食べやすかったようで非常食について安心してもらうことができた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>



- ・おにぎりやかりんとう等非常食を調理することで、親しみや味に慣れることができた。児童たちはフリーズドライの白飯の変化に興味を持ち、積極的に取り組んでいた。出来上がりを教職員に配り、白飯の味を確認してもらうことができた。



- ・今回の備蓄食は50人分の白飯もあった。本校の備蓄食と同じものだったので中身や調理道具一式入っていることなど、体験しなければわからないことが多く、他の教員に伝えることができた。また、乾パンについてもカロリーなどの質問があったため、調べたことを職員室に貼りだし、共通理解を図った。美味しく食べるアイデアなど積極的に教員間で意見が出た。

【課題】

- ・県から配布された備蓄食の賞味期限が10月末で、学校行事の直後だったために実施時期が限定されてしまった。当初予定していた学部の都合が悪くなり、調理活動が行えなくなったため白飯調理が小学部しか行うことができなかった。

成果物

特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：15】※3

タイトル	第2回避難訓練
実施月日（曜日）	平成27年11月11日（水）
実施場所	本校教室および体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：手島大介 久賀歩 所属・役職等：高等部教諭 防災部副部長・小学部教諭 防災部
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:20～11:10
プログラムのカテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	4・5・6・7・8・9
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に落ち着いた対応ができる ・災害の知識と対処の仕方を学習する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>（想定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震度6弱の地震が発生する。 ・災害発生後、行内外の被害状況を確認し、報告する。 ・災害対策本部の教員は災害時アクションカードを用いて動きの確認をする。 ・放送が壊れて指示は声のみ。きちんと伝えられるか検討する。 ・外の倒木が激しく、避難路が通れない想定のため安全な校内を通り、体育館に避難する。 <p>（訓練の流れ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報音が流れる 「地震が来ます。身を守ってください」 ・身を守る行動をとる ・安全な場所で待機 <u>その間、担当者が校内外の状況を確認、報告</u> ・地震の状況報告を放送で告げるが途中で放送機器が壊れる <u>その間、担当者が各部署へ声で状況の伝達・報告</u> ・避難指示 ・担任等による避難誘導 ・避難場所の体育館に集合、点呼、安否確認 ・各学部主事に報告。主事は災害対策本部に学部の状況を報告 ・消防署の方の指導講評 ・校長の話 <p>以下の3点を教職員に事前に打ち合わせ無しで行い、それぞれが考え、対応する（指令カードの存在のみ伝達）。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①訓練開始直前に指令カードを各教室（学部ごと2～3教室）の入口に貼る。（ドアが開かない・棚が倒れる・ガラスが割れる等）その指令を受け、どのように対応するかその時に判断し、避難する。 ②廊下の空調を模した箱を天井からつり下げ、空調機器が落下した想定を作る。避けながら避難する。





	<p>③また別な廊下で落下した空調とその傍で倒れている車椅子と人形を用意しておく。</p>  
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉西部広域消防本部 埼玉西部消防署高萩分署 署員 (消防車・救急車) ・ 緊急地震速報音CD ・ エアコンを模した箱3つ ・ 日高まもるくん人形 ・ 車椅子 ・ 災害時アクションカード (災害対策本部用+各教室) ・ 非常持ち出し本部BOX ・ 拡声器 ・ ヘルメット ・ 防災頭巾 ・ クッションや布団など ・ 指令カード10枚 ・ 名簿
<p>参加人数</p>	<p>本校児童生徒教職員 約170名 (中学部20名は校外学習のため不在)</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>0円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な状況を想定し、本校で起こりうる訓練を行うことができた。 ・ 放送が故障し声の伝達をしたが、情報を伝えることや落ち着いてしっかり連絡を聞くことの大切さを感じてもらうことができた。 ・ 負傷者対応も他の研修で取り組んでいたため、学部の教員と養護教諭の連携が図れて、落ち着いて対応していた。保健室から担架を持って来て搬送したが、担架の場所を検討するなど緊急時対応の改善につながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡声器の声は遠くまで聞こえにくいことが分かった。 ・ 避難路が危険であるという連絡が一部に届かず、外の避難路を通過して来た学年もいて、校内にいないと慌ててしまう場面もあった。防災担当が各教室を回り、しっかり伝えるなど、正確な情報の伝達ができるよう検討していく。
<p>成果物</p>	<p>特になし</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。


※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：16】※3

タイトル	第7回かわせみ防災タイム
実施月日（曜日）	平成27年11月11日（水）
実施場所	本校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：齋藤朝子 所属・役職等：小学部教諭 防災部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:20～11:10の避難訓練の 10:40～11:10の30分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	16
活動目的※5	1・5・6・7・8・9
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の身の守り方として身を低くしたり、頭を守ったりすることの大切さを知る。 ・防災委員会及び高等部の学習の発表の場としての学びや気づきを全校で共有する。 ・「あたりまえ防災体操」で身の守り方を確認する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の振り返り パワーポイントを使い、地震の時の身の守り方を確認する ・高等部生徒が池袋防災館での学習体験を発表する  <ul style="list-style-type: none"> ・防災委員会による身の守り方の発表 ・ひだか防災安全マップ 危ない場所を選んだ理由をそれぞれが発表する 防災委員長より全校のみんなにお願いを発表する 「校内は物が多いので、地震の時に倒れてきたり、落ちてきたりする危険な場所が多かったです。整理整頓をお願いします。」 




	<p>・あたりまえ防災体操で確認する。</p> 
<p>準備、使用したもの</p> <p>・ 人材</p> <p>・ 道具、材料等</p>	<p>(人材)</p> <p>・ 防災委員会 ・ 高等部CDグループ生徒代表</p> <p>(道具・材料)</p> <p>・ ひだか防災安全マップ ・ プロジェクター ・ パソコン</p> <p>・ マイクセット ・ クッション ・ 防災頭巾 ・ ヘルメット</p> <p>・ あたりまえ防災体操CD</p>
<p>参加人数</p>	<p>本校児童生徒教職員 約170名 (中学部20名は校外学習のため不在)</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>0円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>・ 高等部の生徒が「大きな揺れ（震度6強）の時は車椅子のブレーキをしても動いてしまうこと、机の下に潜れないだけではなく、車椅子が動いてテーブルにぶつかることもある、周りに何もない安全なところにいることが大切だと感じた」という発表は生々しく、安全確保が何よりも大切であることを再確認することができた。</p> <p>・ 防災委員会の活動として発表や「あたりまえ防災体操」がよかった。体操は覚えた児童が積極的に行うようになり、他の児童生徒も楽しみながら防災学習ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・ スライドが見えにくかった（体育館のカーテンを閉めなかったため）。踊る様子が見えるようステージの活用を検討する。</p>
<p>成果物</p>	<p>・ パワーポイントスライド</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。




※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：17】※3

タイトル	P T A 防災学習会
実施月日（曜日）	平成27年11月27日（金）
実施場所	本校会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：小倉丈佳氏 所属・役職等：プラス・アーツ東京事務所長
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:00～12:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	2
活動目的※5	3・6・8・9
達成目標	・災害はいつ、どこで起きてもおかしくないことを知り、「イツモ」備えることの大切さを知る。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体験プログラムを開催する際に受講したプラス・アーツ企画の合同研修会に参加して、本校の取り組みの相談を行った。 ・保護者向けに分かりやすい防災講座をしてもらえよう、講師依頼をする。 ・P T A 防災委員会と相談し、事前の質問項目をメールで送っておく。P T A の意見の中には「防災頭巾は効果がないのか」というものがあつた。P T A の方でもヘルメットがいいのは分かっているが、全校に訴える方法でまだ迷いがある。防災頭巾が主流なので本当にこれでいいのか、という疑問があつたようだ。これについて詳細な返答を返してくれたので学習会の時に報告をした。 ・地震のメカニズム「日本中、いつ、どこでも地震は起こる」 ・家具の固定について ・トイレの備えについて ・防災グッズ暗記クイズ ・災害時の食事（ローリングストック） ・災害時の連絡方法について 



	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内にPTA防災委員会が作成した「バックDEずきん」の展示、終了後説明など。   <ul style="list-style-type: none"> ・災害時サポートブックの試作を見てもらい、アンケートに答えてもらう。 
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会のチラシ（スクールバスに貼る。近隣に配布） ・パソコン ・ プロジェクター ・ バックDEずきん ・講師が用意した防災グッズ（家具の固定道具、ランタン、トイレ用品、非常食、ヘッドライト等） ・バックDEずきん ・ 災害時サポートブック試作
参加人数	20名 （校外参加者1名含む）
経費の総額・内訳概要	5万円 （講師謝金）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災はやはり「難しい」「大変」というイメージが強いが、学習会を通して、生活の中に「イツモ」あることだということを楽しく学ぶことができた。 ・家具の固定とガラス対策の大切さ、手軽にできる備蓄などでできるようなヒントを聞いて、早速対応する家庭もあった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の参加を増やすための広報等の活用
成果物	保護者の作成したバックDEずきん

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：18】※3

タイトル	職員防災教育指導法研修会
実施月日（曜日）	平成27年12月16日（水）
実施場所	本校会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：宮崎賢哉氏 所属・役職等：（社）防災教育普及協会事務局長
所要時間または「コマ数×単位時間」	15：50～17：00
プログラムのカテゴリ、形式※4	2
活動目的※5	6・8・10（授業づくり）
達成目標	これまでの本校の防災教育を振り返り、本校の児童生徒の実態にあった防災教育をみんなで考えることができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実践の振り返り（かわせみ防災タイム指導案より） ・講師によるこれまでの取り組みの整理、助言、アドバイス ・防災授業、指導案づくりのヒント ・効果的な防災教育のための前提、目標、評価の方法について ・質疑応答、意見交換
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>（講師からの資料）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『地域における防災教育の実践に関する手引き』 ・「うさぎ一家の防災荷造り」 ・「The Great Japan Shake Out リーフレット」
参加人数	本校教職員
経費の総額・内訳概要	2万円（講師謝金）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育のための知識や、進めていく上でのポイントが分かった。 ・本校のこれまでの取り組みがどのようにかわせみ防災タイムに繋がっているかを整理してもらい、より内容を理解できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演だけではなく、話をもとにグループワークを入れることで実践を振り返り、より充実した研修にする。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで各担当を担っていた職員が異動になり、防災担当も2名以外新転任者になった。今までの引継ぎと、新しい取り組みを行うための共通理解をこれまで以上に時間をかけて行う必要があった。 ・本校の教育課程の中に防災教育「かわせみ防災タイム」を組み入れ、限られた授業時間の中でそれぞれ学んで欲しいテーマを決めて計画し、指導案を一から作成した。教科学習が主となる学級の授業時数を減らさないように全校で調整したことや、生活年齢や発達段階を考慮しながら計画を立てることや教材の選定が難しかった。昨年度指導案だけ配布しても指導しにくい、という反省を受け、各学部の防災担当が中心となることで指導内容や目的を明確にして指導することができた。クイズや映像、あたりまえ防災体操など、教材を工夫したことで子どもたちが興味を持って防災教育に取り組むことができた。これを見て教職員も本校の児童生徒にも防災教育を行うことができることを感じてもらうことができた。 ・今年度、本校の災害時組織を各分掌組織に割り当てて計画を見直した。これをうけ、避難訓練、引渡し訓練、防災体験プログラムなども災害組織班ごとに内容を見直し、担当分掌に計画・提案を任せた。これまでの仕事とは別に防災についての役割を担うことになって年度当初は混乱し、各訓練時のとりまとめや調整に苦勞したが、アクションカードを活用したことで内容が一目で分かり、行動しやすかったようである。 ・職員研修の回数を校内全体として見直すことになり、昨年度よりも1回減少した。そのため、少ない研修回数でも実践的な研修内容の工夫をした。防災体験プログラムの準備の中に災害時想定訓練を盛り込み、避難所設営のため、各災害組織班の動きを確認するという目的を加えて行った。 ・防災プログラムでは、学区内の社会教育施設に防災をキーワードに問い合わせをし、出張プログラムとして講師派遣を依頼し、できるだけ費用をかけずに専門家の力を借りて、防災のスキルが楽しく学べることができた。PTA 防災委員会が見付けてきたチラシを元に、震災時に物資協力した企業にも無料で展示提供の協力を得ることができた。学校の近くでも防災をテーマにして調べていけば強力な助っ人が何人もいることがわかった。
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体験プログラムの開催時期が7月末となった。今年の夏も暑さが厳しく、体温調節の苦手な本校の児童生徒を始め参加者の体調についても心配される恐れがあったため、開催直前でメイン会場の体育館の使用を見送り、冷房の効く校内へ会場変更となった。全体が見えにくい配置の中、いかに一体感を持たせられるかについて何度も調整し、練り直す必要があった。参加者や協力者が増えたことで敷地内に駐車するスペースや暑さ対策など各担当に様々な想定を考えていたため、当日は臨機応変に対応することができた。 ・児童生徒が取り組みやすいものとして、千葉県立東金特別支援学校の「あたりまえ防災体操」を使用させていただこうとしたが、歌詞や動きが本校の実態に合わなかった。そこで吉本興業やCOWCOWさんに主旨を説明して、本校用に変更した内容を伝え使用許可をいただいた。



	<p>これまでの防災学習でいつも伝えていた言葉を歌詞に盛り込み、動きも車椅子の児童生徒が行いやすい上肢の動きを中心にし、教職員も児童生徒に関わりやすいものにした。1回目の実施後、すぐに覚えて口ずさむなどその効果の大きさを感ずることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防署の機材の故障の為、煙体験装置の使用ができなかった。しかし、火災の時は煙の対応が大切なので是非取り組みたいと思い、別な方法で災害を体験してもらうように教材を工夫した。煙のフワフワしたイメージでオーガンジーの布、色もわかりやすいように黒にした。児童生徒の実態に合わせたものが作成でき、煙に見立てた布でも十分に災害時を想定した動きを体験することができた。
<p>実践に 当たって 苦労した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の大量異動や、研修時期と回数の変更、減少で1学期中に防災意識を高め、共通理解を図ることが十分にできなかった。しかし、昨年度よりも早くショート訓練を4月に実施し、昨年度までの取り組みを理解している職員や児童生徒たちのこれまでに積み重ねてきた動きに新転任者たちも刺激を受け、真剣に取り組むようになり、不足分を補うことができた。 ・ 活動を継続させるための仕掛け作りを意識して実践した。資金的なことや、特に講師を招いての研修などが厳しくなる場合には、教科担当や公的機関の講師派遣制度を利用して補うことができるか、などを見据えて内容を計画した。予算面についてはPTA等の協力もあり防災体験プログラムの非常食や消耗品を購入する見通しがたった。プログラム内容を職員でできる内容と消防署、防災士の協力だけでなく、今後は日本赤十字社、学生ボランティアサークルにも拡げていき、各団体の専門性を生かした内容を取り入れ、継続できるようにした。 ・ 職員だけでなく児童生徒会の防災委員会、PTAの防災委員会が新たに立ち上がり、その運営にも防災担当が関わった。これまでの児童生徒会、PTA担当との連携を図るのが難しかったが、防災担当が入ったことで計画、実践がしやすくなった。防災体験プログラムの看板作りや、かわせみ防災タイムと各委員会の活動を繋げることでそれぞれに関わることができた。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	名栗げんきプラザ	防災体験プログラムで防災アクティビティの講師
	兵庫県立和田山特別支援学校	ショート訓練等情報提供、肢体校の取り組み、防災教育の共有、あたりまえ防災体操伝達
	岐阜県立加茂特別支援学校	災害時アクションカード情報提供
保護者・ PTAの組織	P T A 防災委員会	防災体験プログラム企画・運営 P T A 防災学習会企画・運営
	全国肢体不自由児 P T A 連合会	H P に掲載
	埼玉県立富士見特別支援学校 P T A 防災担当	本校の取り組みを紹介。情報提供
地域組織	高富自治会	防災体験プログラム見学
国・地方公共団体・ 公共施設	埼玉県危機管理課	非常食の提供
	埼玉県防災学習センター	教材、資料等
	日高市社会福祉協議会	ボランティア募集
	日高市役所	非常食の提供
	埼玉西部広域消防本部埼玉西部消防署高萩分署	防災指導、助言、防災体験プログラムにおける起震車貸し出し等
	池袋防災館	高等部防災学習
	光の家療育センター	防災体験プログラムでの災害医療講座 災害時サポートブック作成にあたって助言
茨城県水戸市役所	福祉避難所設営訓練についての情報提供	



<p>企業・ 産業関連の組合等</p>	<p>モルト技研</p> <p>埼玉県LPガス協会 西部支部</p> <p>J A いるま野</p> <p>公益財団法人日本公衆電話会埼玉支部</p> <p>吉本興業・COWCOW</p> <p>株式会社 AEON</p>	<p>防災体験プログラムにてダンボール製トイレ等の展示、紹介</p> <p>彩の国炊き出し応援隊のLPガス提供</p> <p>彩の国炊き出し応援隊の米提供</p> <p>災害伝言ダイヤル体験</p> <p>あたりまえ体操替え歌許可</p> <p>AEON の黄色いレシートキャンペーンによる非常食および防災体験プログラムの消耗品寄付</p>
<p>ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等</p>	<p>日本防災士会埼玉支部</p> <p>日本赤十字社 埼玉支部</p> <p>NPO 法人 プラス・アーツ</p> <p>はるかのひまわり絆プロジェクト</p>	<p>防災体験プログラム助言、指導</p> <p>防災教育教材提供</p> <p>PTA 防災学習会講師</p> <p>防災体験プログラムへの情報提供およびアドバイス</p> <p>防災委員会の活動用ヒマワリの種提供</p>
<p>職業、職能団体・ 学術組織、学会等</p>	<p>一般社団法人防災教育普及協会</p> <p>埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター</p>	<p>防災指導法研修講師</p> <p>本校の地盤についての情報提供</p>

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時アクションカードは、誰が見ても役割内容が分かりやすく、学校現場でも実用性が高いことが分かった。災害時など混乱する場面でもこれを見て指示を出しやすかった。今後研修での反省を受け、より実用的な内容、教室等で見やすく取り出しやすい掲示場所になるよう見直していく。 ・かわせみ防災タイムでは、防災担当を中心に、児童生徒にとって体験して分かる学習から肢体不自由校での防災教育の可能性と多くの気づきを得ることができた。非常食を活用して生活単元学習の授業を行うなど、無理なく日常の生活に防災を加えることができた。防災委員会が中心になって活動したことで、意欲的に防災に取り組む姿がみられた。教職員の一方的な提案だけではなく、児童生徒が受け止めたことを周りに発信することで、より理解が得やすくなり、学習への意欲向上に繋げることができた。 ・入門枠からの課題であった受援力を高めるための「災害時サポートブック」や、自助のための「バック DE ずきん」の作成等、車椅子の子どもたちを様々な視点から守ることができるものを提案することができた。今後は広く発信することでこれからの提案をより充実したものにしていきたい。 ・全国肢体不自由 PTA 連合会や防災士会のホームページに、本校の取り組みが掲載された。また、NHK や飯能日高ケーブルテレビ等テレビで放映されたことで本校の活動を知ってもらう機会になった。本校のホームページも防災コーナーを今年度から充実させ、様々な取り組みを発信することができた。他県からの問い合わせあり、それをきっかけに肢体不自由自校の防災教育の取り組みを情報交換をすることができた。交流として本校で取り組んでいるあたりまえ防災体操を紹介し、相手校の防災教育でも活用してもらうことができた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修が減ったため、限られた回数の中でいかに防災意識を高め、問題点を解決するための研修にしていくか。研修内容の精選が今年度はうまく行うことができなかった。ショート訓練同様、複数年計画で取り組むなど見直しが必要になると思われる。 ・児童生徒会活動の中の防災委員会や PTA 防災委員会、かわせみ防災タイム、と今年度は新たに立ち上げたものが多く、昨年度から引き継いだ教職員が少なかったため、それら全てに関わざるを得なかった。このため新たに加わった防災担当への引き継ぎを丁寧に行うことができなかった。職員の異動による継続問題を視野に入れ、誰が担当になっても取り組めるように内容をまとめておく。またこれらの新しい取り組みが軌道にのるためには数年間が必要だと思うので、引き続き児童生徒や PTA が主体的に取り組めるような活動の支援と共に各担当部署の専門的な知識を活用できるように連携を図っていく。 ・災害が起こりにくいと考えられている地域であることから防災意識はあまり高くない。近隣住民が少ない地域のため本校の防災の取り組みを知らせても参加が少なかったのが課題である。自治会や近隣の企業との連携を強めるため、頻繁に声を掛けつながりを作っていけるようにしたい。



	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の取り組みは先行事例が少ないこともあり、教職員から「どのように対応したらいいのか」という不安が多くあり、全てを解消することができなかった。チャレンジプラン終了後、外部のアドバイザーを探し、一緒に考えてくれる人を探していく必要がある。教職員が自信を持って取り組むために、今後研修や訓練の充実、様々な地域や団体の取り組みと情報交換を行っていききたい。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かわせみ防災タイムでは誰でも指導できるような授業テーマの蓄積を行う。外部講師を招くなど専門的な指導が受けられるよう情報収集を図り、学習を充実させていく。 ・防災体験プログラムは、参加者や教職員からも高評価を得られた。来年度も実施予定である。そのためのボランティアを地域連携担当を窓口として募集していく予定である。災害時のボランティア受け入れの訓練も兼ねられるように繋げていく。参加児童生徒に受援力を高めてもらうためには、積極的に外部ボランティアを受け入れること。近隣の高校との連携として、日本赤十字社の JRC の活動に協力を依頼する計画もある。「日高で防災体験プログラム」が定番になるように活動時期や内容を充実させていく。 ・災害時を想定したシュミレーション訓練と防災教育・指導方法指導方法の検討や防災意識を高めることができるような研修を計画し、職員の異動があっても防災意識が低下しないように職員研修の充実を図っていく。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

身を守るための「バックDEずきん」の提案～車椅子の児童生徒の視点から～

・机の下等安全な場所に身を隠すことができない車椅子の児童生徒にとって、どのように身を守るかが課題になる。震度6強の地震体験で車椅子のブレーキが利かなくなり、勝手に動いてしまう恐怖を感じた高等部の生徒達の体験談がある。校内には布団やクッション、ヘルメットが常備されている。身を守るためにはヘルメットや防災頭巾を携帯する必要性を教職員も理解しているが、車椅子の操作性が落ちることや、物の出し入れがしにくい、他の子が頭巾を引っ張って転倒の可能性がある等の理由で全校的に実用化されにくい。校内の環境整備と共に身を守るものをどのように用意するのかを考える必要がある。



- ・防災頭巾の袋をレッスンバックを基に車椅子のハンドルに背負えるように改良した。脇から頭巾を取り出しやすく、車椅子のポケットの出し入れにも支障がない。保護者と相談して工夫した例である。
- ・タオルを利用して防災頭巾を作成したという他団体のアイデアを基に、本校の実態に合うものを作成した。日常的に荷物を入れるバックを付けていることが多い。スナップで両脇を外せるため広げれば頭だけでなく、気管切開部や胃瘻等のボタンなど広い範囲を守ることもできる。片側を外せば頭巾になり、児童生徒の必要な形に合わせることができる。仕切りを2重にしてオムツや着替えを入れておけば中身も飛び出さずクッション代わりにもなる。非常持ち出し用袋として移動教室や校外学習でも携帯できる。



・文化祭で展示したところ興味を持った人がいたため、PTA防災委員会で試作し、学習会で展示、説明した。委員の保護者が我が子に合わせて大きさや形を工夫して作成した。ショート訓練で実際に使用してもらい、担任から課題や使い心地を聞いて保護者と共通理解を図った。今後改善しつつ、保護者対象の製作会を計画している。

(自由記述： 1 / 3)



サポートブックの作成 ～受援力を高めるために～

防災体験プログラムの災害時医療の講師の方から「『この子は私（親）じゃなきゃダメ』だと思わないでほしい」という話があった。親がいなくても誰にでも必要な支援を任せられることができるようヘルプカードが必要だという。参加した保護者からヘルプカードを作りたいという声も上がった。本校の児童生徒の実態から、生活面や医療面の支援と多岐にわたり、カードにはその情報量が入りきらないためサポートブックという形で作成した。看護教員、災害医療に携わった医療関係者、保護者の意見を取り入れた。

3年間の取り組みの中から ～なぜ防災教育は取り組みにくいのか～

肢体不自由校の防災教育は「時間・教材・実態」の3ないという課題があるが、本校はさらに「災害は起こらない（だろう）」が加わり、より取り組みが難しいと思われる。

- ① 「災害が起こらない（だろう）」…過去に災害の経験がないため、この意識は根強く、防災教育に取り組む必要性は分かるが後回しになりがちである。本校では入門枠から職員研修を行い、日本中災害が起こる可能性のある「未災地」である意識づけることから始めた。またショート訓練を通じて「いつ・どこでも起きる災害に対応する」ために繰り返し取り組み、本校の防災の取り組みの一つとした。
- ② 「時間がない」…埼玉県肢体不自由校は実態に応じて4つの教育課程があり、教科指導を主とする学級では授業単位の確保が課題となっている。そのため新たに教科ではない防災を加えるのは困難である。このため中・高等部では教科学習、特別活動（学部集会）や総合的な学習の時間で、小学部は自立活動の時間で指導した。さらに内容をより理解させるための教科・領域、社会体験学習に発展させることができた。
- ③ 「教材がない」…特に重複学級に当てはまる課題である。自分の身体を思うように動かすことができない本校の児童生徒にとってどのように指導していくかはこれまでも課題になっていた。昨年度は指導案を作成し、実態に応じた指導を担当に任せていたが「与えられた指導案をそのまま使うのは難しい」ため、十分な指導ができなかった。特別支援教育では一般化された指導案はあくまでも「参考」であり、実態に合った指導をするためには新たに担任団で検討し、作成しなければならない。そこで今年度は防災担当が指導を行った。各学部の防災担当で計画段階から打ち合わせし、指導のねらいを十分に確認することができた。各学部で指導する際、ねらいを明確にしているため、生活年齢等を考慮して具体的な内容や教材を工夫できた。指導単位を全校指導、学部、学年に合わせて内容を工夫した。
- ④ 「実態差のため同じ指導ができない」…小学1年生～高校3年生という年齢差、そして障害の程度の幅もある。身体面だけでなく、認識面でも年齢相応の発達段階から外界からの働きかけを受け止め、自分の思いを表現することが困難なものまでその差が他の障害種の特別支援学校よりも大きいと思われる。

これらを解消するためかわせみ防災タイムを計画した。学んでほしい項目を精選し、

(自由記述： 2/3)

指導単位を工夫した。全校に共通する災害時の身の守り方については避難訓練後の全校指導で行った。体験学習や学習の報告を行い、それぞれの様子を見合うことで気付きを共有しやすかった。本校の教職員の悩みの一つでもある「これが正しいのか？」をこれにより確認し合う機会になった。

学部単位の指導では、より理解しやすくするため生活年齢を考慮した教材を使用した。学年・グループ単位では担任がこれまでに行ってきたショート訓練時の身の守り方の事前指導や、防災袋の点検を実施した。

初めての取り組みに職員は戸惑いが多かったが、リーダーと児童生徒、そしてサブの教職員の声が届きやすい距離で指導が行えるため、逆にみんなで授業を作りやすくなった。臨機応変に声を掛け合い、児童生徒に合った指導をその場でサブの職員が対応にあたることができた。ねらいを理解した教員が指導する事で授業の軸ができた。そのため成果物に掲載する指導案についても細かいものではなく、「ねらいと本時の流れ」に簡略化し、あくまでも指導のヒントとして、各学校の実態に応じて対応しやすいようにした。

本校だけでなく、特別支援学校は職員が毎年1/3程度入れ替わる。これまで他校種、障害種にいた職員も多いため、肢体校の課題を理解し、取り組めるようになるためには時間を要する。防災力向上のための研修を行うよう毎年工夫しているが、上記のことから経験や研修を積んだ職員とまったく未経験の職員と毎年その差がある。そのまま積み上げられない困難さを認めた上で、職員同士「補い・高めあう」研修作りをしていくことになる。

今年度は、教職員の訓練や研修だけでなく、児童生徒への防災教育を充実させることで、より本校の防災力を高めることができるのではないか？というチャレンジを行った。「イツモ」の生活の中に無理なく防災を取り組み、児童生徒が意欲的に関わる場面を増やしたことで、十分な効果があったと思われる。それでも個々の実態にあった指導は、まだ不十分である。やはり職員間の防災についての価値観の違いを認めた上で、子どもを守るためには最低限必要な災害時の行動を理解し、防災意識を低下させることなく維持していくことが重要である。職員防災力が欠如すると特別支援学校の児童生徒への指導は充実できない。両方同時に取り組むことが車椅子の子どもたちを守ることに繋がる。これらは過去の実践団体である調布特別支援学校の報告でも指摘されていたことである。

この3年間、訓練や研修を重ねることで立ち向かう困難さが明確になり、途方にくれてしまうということもあった。しかしそこで諦めるわけにはいかない。困難さを克服するために課題を整理し、声を上げていくことが必要になる。地域や外部に声を上げ、協力できる人たちを探すこと、一緒に問題に取り組む仲間を探していきたい。学校だけでは困難なことも地域や専門家と繋がることで解決、また改善することがあると思う。この3年間のチャレンジプランの取り組みで作り上げて来た「かわせみ防災プロジェクト」の充実を目指して今後も取り組んでいきたい。

(自由記述: 3/3)